

レッスン 3--ルツ記 4 章 9-15 節

ベツレヘムで生まれた 2 人

この素晴らしい日曜日に大阪インターナショナルチャーチにようこそお越しくございました。私は、チャーリー・シーレンと申します。私の妻、テレサと私は、サザンバプテストの宣教師としてこの大阪で宣教活動をしています。長年日本で奉仕している私たちにとって OIC の皆さんは素晴らしい同胞、大切な友で、今朝こうして皆さんと時間を共にすることができることを光栄に思っています。

先々週から、ルツ記と一緒に学んでいます。ルツの物語は、士師記の時代に起こった出来事です。

士師の時代は、イスラエルの民がヨシュアに率いられ、約束の地に入ってから 400 年ほど経った時で、まだイスラエルに誰も王が誕生していない時期でした。時期としてはおよそ紀元前 1500 年から 1100 年というところでしょう。

英語の聖書で見ると、士師記はルツ記のすぐ前に来ていますが、古い昔、聖書は現在の私たちが用いる聖書のような形ではなく、巻物に記されたものでした。そして、実はルツ記は士師記の一部でした。ルツ記は士師記と同じ巻物の最後に記されていたのです。どうしてそれが重要なのでしょうか？士師記がどのような内容だったかお気づきですか。士師記の最後の節を読むだけでも、それがどのような時代であったのかが分かります。

士師記 21:25 「そのころ、イスラエルには王がなく、めいめいが自分の目に正しいと見えることを行っていた。」

それは、イスラエルにとって非常に暗い時代でした。人々は罪を犯しては、神によりイスラエルの敵が送りこまれ、人々は助けを求め、神は哀れみ深くも、彼らを救うべく士師を立ち上がらせました。

人々は何度も何度も神に背き、イスラエルに与えられていたはずの義と栄光という神のご計画が、まるで表から一掃されてしまったような状態でした。

しかし、そのイスラエルの背き、混乱、自滅的時代にも、神はご自身の民を救うことを選ばれました。士師記と同じ巻物に記されたルツ記は、混乱の中にある人々に贖いと希望のメッセージを与えています。ルツ記はまさに神のすばらしさと恵みを際立たせているのです。

教会とは、失敗とは無縁で、傷や癖、コンプレックスのない完璧な人たちだけのためにあるもの、とお思いですか。もしそうだとしたら、あなたは教会について間違った認識を持っています。教会の家族とは、落ち込み、孤独を感じている時にこそイエスの愛と恵みを形にするべく共に集まるものです。教会は、私たちの希望であるイエスの恵みを、目に見える形に体現するためにあるのです。

ルツの物語のすべてが罪人たちの寓話です。ボアズがルツを贖う者であったように、神はあなたの贖い主なのです。

今朝は、ボアズとルツの間にもうけられた男の子、オベデの誕生と、ヨセフとマリヤの間に生まれた子、イエスの誕生の間に、素晴らしい類似点が多くあることを皆さんにお見せしましょう。

ボアズとルツは、ベツレヘムに住んでいました。彼らは結婚して男の子をもうけました。オベデと名付けられたその子は、ヨセフとマリヤが幼子イエスをもうける 1400 年前に生まれました。では、ルツ記 4 章 9-15 節を読んでみましょう。

4:9 そこでボアズは、長老たちとすべての民に言った。「あなたがたは、きょう、私がナオミの手から、エリメレクのすべてのもの、それからキルヨンとマフロンのすべてのものを買ったことの証人です。 4:10 さらに、死んだ者の名をその相続地に起こすために、私はマフロンの妻であったモアブの女ルツを買って、私の妻としました。死んだ者の名を、その身内の者たちの間から、また、その町の門から絶えさせないためです。きょう、あなたがたはその証人です。」 4:11 すると、門にいた人々と長老たちはみな、言った。「私たちは証人です。どうか、【主】が、あなたの家に入る女を、イスラエルの家を建てたラケルとレアのふたりのようにされますように。あなたはエフラテで力ある働きをし、ベツレヘムで名をあげなさい。 4:12 また、【主】がこの若い女を通してあなたに授ける子孫によって、あなたの家が、タマルがユダに産んだペレツの家のようにになりますように。」 4:13 こうしてボアズはルツをめとり、彼女は彼の妻となった。彼が彼女のところに入ったとき、【主】は彼女をみごもらせたので、彼女はひとりの男の子を産んだ。 4:14 女たちはナオミに言った。「イスラエルで、その名が伝えられるよう、きょう、買い戻す者をあなたに与えて、あなたの跡を絶やさなかった【主】が、ほめたたえられますように。 4:15 その子は、あなたを元気づけ、あなたの老後をみとるでしょう。あなたを愛し、七人の息子にもまさるあなたの嫁が、その子を産んだのですから。」

9 節—ここで、ボアズが言っていることを思い出してみましょう。ボアズはベツレヘムの町の長老たちの前に居ました。そして彼らに向かって、「私はエリメレクの抵当に入っている所有地を買い取ることでナオミとルツを買い戻し、モアブ人ルツと結婚するつもりです。」とっています。

10 節—ボアズは、結婚についてその場で公言し、ナオミに、夫と息子たちの名が残ることを約束しました。

11 節—結婚の知らせを聞く時、人はどう反応するでしょうか？祝福の意を示しますよね。ボアズがルツとの結婚について知らせると、その場にいた人たちと長老たちは、「私たちは証人です」と祝福し、続けて「ルツがあなたに子を産むように」と言ってこの 2 人を祝福しました。「あなたの家に入る女を、イスラエルの家を建てたラケルとレアのふたりのようにされますように。あなたはエフラテで力ある働きをし、ベツレヘムで名をあげなさい。」

12 節—長老たちは続けて祝福します。

ペレツは、ユダ族の元となったユダの 5 人の子どものうちの 1 人で、ベツレヘムの人にとって祖先にあたりました。

13 節—ルツは、イエスがベツレヘムでお生まれになる 1400 年前に、同じベツレヘムで男の子を産みました。ルツは、買い戻しの権利のある親類であるボアズによって、その子を産んだのです。

14 節—誰の名について言っているのでしょうか？ボアズの名だけではなく、ルツに生まれる男の子も含まれています。その子は、家族の相続権を持ち、またすべてを失った家族や親類を助ける伝統を引き継ぎます。その子は父（ボアズ）の名を継ぎ、困難にある人たちを買い戻す（贖う）力を持つのです。

15 節—最後の節は、今日の中心聖句です。イエスのお生まれになる 1400 年前に生まれたオベデがルツとナオミにとってそうであったように、イエス・キリストが私たちのためにお生まれになったということを、この節からお示ししましょう。

まず、イエスの誕生とオベデの誕生の間に多くある素晴らしい類似点を見てみましょう。

1. ボアズとルツが町の長老たちに祝福・激励されたのと同じように、(9-14 節)
ヨセフとマリヤは子が生まれる前に主のみ使いから祝福・激励を受けた (マタイ 1:24)

2. ルツは主に恵まれ、奇跡的にオベデをみごもった (13 節)
マリヤは主に恵まれ、奇跡的にイエスをみごもった。(ルカ 1:28)

聖書評釈によると、ボアズとルツは、子どもを持つ年齢としては遅めの年齢であった、とあります。特にボアズは、オベデが生まれて時を置かず死んだ可能性があります。

3. オベデは長老たちが預言した通り、ベツレヘムで生まれた (12 節)
イエスは、預言者ミカが預言した通り、ベツレヘムでお生まれになった (ミカ 5:1)

4. オベデの名はイスラエルに知られるようになった (14 節)
イエスの名は世界中に知られるようになった (使徒 4:12)

5. 主はルツに、救いとなる息子を与えられた。(14 節)
イエス・キリストは世全体のための救い主 (贖い主)、キリストである (テトス 2:14)

最後に、イエスがあなたにしてくださることをお示ししましょう(ルツ 4:15)

「4:15 その子は、あなたを元気づけ、あなたの老後をみとるでしょう。あなたを愛し、七人の息子にもまさるあなたの嫁が、その子を産んだのですから。」

I. ベツレヘムでお生まれになった方は、いのちを生き返らせる方

—「あなたの魂を生き返らせる者となり..... (15 節、新共同訳)」

英語で「life (いのち、人生)」という言葉を定義することは容易ではありません。インターネットで見られる定義は以下のようなものです。

- a) 死んだ体とは区別される、生体機能を備え持った存在のその性質 (検死的観点からの定義)
- b) 生まれてから死ぬまでの期間 (伝統的定義)
- c) 生き方や生活態度 (聖書がいのちについて触れる際の使い方)

- 人生とは、「誰が最期に一番沢山のものを持っているか」ということではありません
- 人生とは、「作り変えられながら歩む道のり」です。
- 「重要なのは目的地ではなく、道のりである」とよく言われる通りです。
- マタイ 6 : 33 「6:33 だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」

II. ベツレヘムでお生まれになった方は、あなたの老後をみとる

—「～あなたの老後をみとるでしょう。」 (15 節)

この世は、若い人の文化が中心となっています。テレビ、ビジネス、スポーツ、娯楽、その他多くのものが、若者をターゲットにしたものばかりです。若い時期は、ほんの束の間です。どうやっても、若さを自分に引き留めておくことなどできません。

では、若い時期が過ぎ去ってしまったらどうなるのでしょうか？

年老いて力が衰え、歯を失い、視力も衰えてしまいます。

詩編 71 編で、著者は、年老いた自分を思う時の恐れについて語っています。彼は「71:9 年老いた時も、私を見放さないでください。私の力の衰え果てたとき、私を見捨てないでください。」と主に向かって叫びます。

コリント第二 4 : 16 で、パウロは年老いることについて、外なる人が衰える、と表現しています。

「4:16 ですから、私たちは勇気を失いません。たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。(コリント第二 4 : 16)」

多くの方は、老齢によって訪れる困難に失望します。そして悲しみや不安に襲われ、いとも簡単に方向を見失ってしまうものです。しかし、人生が最終章に近づいて行くならば、キリストと一つとなる時が現実のものとして近づいてくるです。キリストにある者にとって、年老いることは恐れではなく、むしろ希望であり、不名誉ではなく栄光であり、衰退ではなく聖めであり、喪失ではなくむしろ獲得することなのです。年老いるという事実は、イエス様が用意してくださる輝かしい将来に私たちの目を向けさせることで、私たちを強めてくれます。

III. ベツレヘムでお生まれになった方は、まことの愛の備え主である —「あなたを愛し～その子を産んだのですから。(15 節)」

どん底と思える時にでさえ神は働いておられるということは、この小さな書から読み取れる主たるメッセージと言えるでしょう。士師記の時代にボアズとルツに生まれた子は、オベデでした。オベデはエッサイの父となり、エッサイは、イスラエルを最大にして最高の栄光へと導いたダビデの父となりました。どん底と思える時にでさえ神は働いておられるのです。ご自身の民のその罪を通してでさえ、神は彼らに栄誉を与えることができる方であり、実際にそうしてくださる方なのです。そしてそれは国レベルの問題だけではなく、私たちの個人的な問題や、家族間の問題でさえも同様にしてくださいませ。

神はどん底と思える時にも働いておられます。神が自分から遠く感じる時、神が背を向けておられると感じる時、実は神はあなたの人生を支える礎石を敷き詰めてくださっているのです。

それが確信できる詩をご紹介します。

限度ある知識 (五感) で主を裁くな。

彼の恵みを信頼せよ。

恐るべき摂理 (私たちの人生での出来事) の裏には

神の贖いの顔。

あなたを贖われる主により頼みましょう！